

令和5年度(後期) 運営推進会議の詳細

出席者：包括支援センター職員、地区民生委員、利用者家族
地域密着型通所介護の知見者、利用者

1. はじめに

- ・1/31～2/7に発生したコロナ感染拡大の状況について説明、利用休業とはしなかったが自主的にお休み(感染予防)をされた方の健康チェックを確認するために訪問、あわせて弁当をお届けした。消毒、マスク着用等の感染予防は徹底していたが5類以降になってからはパーテーションを外していたが、2月のコロナ発生後からは、更なる予防対策にパーテーション設置を行っている。

《議事内容》

2. 事業運営状況

○利用実績状況報告

・別紙参照

- *1月以降の新規利用増加に反して2～3月に掛けての利用減の原因(コロナ感染による重度化、施設入院)について説明

○行事

・別紙、デイサービス便り(毎月発行)を使つての説明

- *ミニ運動会、紅葉ドライブ、クリスマス会、節分・雛飾り七夕会

○苦情(相談)

- ・午睡中に職員を呼んだのだが取り合ってくれなかったと憤慨されたため、謝罪と、今後の職員の対応を徹底することを説明、ご納得していただいた。

○事故

- ・入浴後に落ち着きがなくなり、帰宅願望の訴え、殺意のある発言を連発、要求されたメモ紙を渡すと千切って(1×2cm角)を口に入れられたことを発見、吐き出すように話すと、興奮状態から飲み込まれた。口に手を入れてかき出すと噛み切られる危険な状態であった。看護師が状態を確認するが問題がなかったため帰宅していただき、ご家族、担当ケアマネに状況を説明、その後の状態変化はなかった。

今後の対応として、ご本人が口に入れられそうな物は置かない、渡さないを徹底する。それと危険な行動、言動には注意し、周りの方への影響を最小限となるように努める。

○ヒヤリ・ハット

- ・トイレに行かれた男性利用者が順番を待たれずに(我慢できず)勝手口から出て排尿されていた。日常的に自宅裏の川で排尿されているためか、自然に外へ出てされたようだが、職員の目の届かない場所(外回り)での危険な行動であるため、常に見守る体制がとるようにし、勝手口の施錠を徹底する。

○職員関係

研修については、義務化となるハラスメント対策、身体拘束防止及び虐待防止。業務継続を中心にした研修を実施。

3. その他

- ・介護保険制度改正にともなう運営規定の条文の追加、義務化されるそれぞれの委員会の設置、研修計画(案)について説明

令和5年度 運営推進会議録

令和6年3月25日 14:00～14:50

場 所：相談室

出席者：包括支援センター職員、地区民生委員、利用者家族
地域密着型通所介護の知見者

【利用者からの感想】

- ・ いろいろな事を考えてやっておられるので楽しみです。
- ・ お弁当はとても美味しく、毎回違う手作りお菓子は感心しています。

【各委員からのご意見、質問】

・ 地域住民代表

デイの方で多くのコロナ感染者が出ているとは思いませんでした。コロナ以外にもインフルが学校関係でも多く出ているのでこれからも高齢者施設では気をつけていただきたい。浜田市で6月に防災訓練があるので前回のように地域やデイサービスの方とも参加してもらいたい。

・ 利用者家族

コロナの事では苦勞されたと思います。母が動くようになっているのでデイサービスの送り迎えにはご心配を掛けていますが、きちんとベッドまで届けてもらい感謝しています。

・ 浜田市包括支援センター

コロナが発生してもきちんと対応され、休んでいる方にお弁当まで届けられ、利用者が喜ばれていると思います。今回の制度改正の方も準備をされています。

・ 地域密着型通所介護の知見者

苦情とされた利用者のような方が職員を呼ばれる方法として、どのような対応をされているのか質問。

回答)ベッド上の方は押しボタンのチャイム、その他の方にも鈴やタンバリンなど使って直ぐに呼べるようにしてあります。また午睡中も職員が常に1～2名程度は利用者を見守る体制をとっています。

【総評】

- ・ コロナが第5類となって高齢者への影響は大きいため、感染対策(消毒、換気、利用中のマスク着用、パーテーション設置)を徹底する。今後に感染が発生した場合は段階的に対策をとりながら業務継続を行っていく。
- ・ 災害(地震、津波)を想定した避難訓練を全ての利用者を対象に実施、実際の避難経路の確認、避難方法を利用者及び職員で再確認しておく。職員に対しても机上訓練を行うことで災害時に必要となること、支援の問題、外部への支援要請を再検証する。
- ・ 職員の体制については、調理、看護師の方で契約切れ、産休及び育休の職員の復帰があり、それぞれの体制、資格要件を満たすように雇用していく。